

# 正しい自己触診法の知識と手技の普及を目指して

鳥取県生活習慣病検診等管理指導協議会乳がん部会  
鳥取県健康対策協議会乳がん対策専門委員会

- 日時 平成24年8月18日（土） 午後2時～午後3時45分
- 場所 鳥取県西部医師会館 米子市久米町
- 出席者 25人  
石黒部会長、工藤委員長  
青木・池田・大久保・岡田・岸本・小林・角・長井・長谷川・廣岡・藤井・  
前田・山口・吉中・米川各委員  
県福祉保健部健康政策課：大口課長  
県健康政策課がん・生活習慣病対策室：山本課長補佐、下田課長補佐  
横井主事、狩野主事  
健対協事務局：谷口事務局長、岩垣係長、田中主任

## 【概要】

- ・市町村が実施した平成23年度国庫補助事業「がん検診推進事業」は、40歳以上5歳刻みで60歳までの人を対象に検診無料クーポン券を配布した対象者数19,198人に対し、受診者数は4,487人、その利用率は23.4%で平成22年度実績よりやや減少した。各年齢別の利用率に大きな差はないが、若い年齢の初回受診者の利用率が高い傾向であることから、初回受診勧奨には一定の効果があったと思われる。
- ・乳がんは自己触診（セルフチェック）により、がんを早期発見出来る可能性が高まることから、正しい自己触診法の知識と手技を普及させることも重要である。よって、本会において推奨される正しい自己触診法の知識と手技（案）の検討を行い、「鳥取県乳がん検診実施における手引き」へ様式追加することとなった。

## 挨拶（要旨）

〈石黒部会長〉

マンモグラフィ併用検診が開始され7年経過したが、精度管理については、きちんとした結果を出さないといけないと思っている。そして、最終的には10年後の死亡率が減少したかということをご一緒に検討していく必要があると思う。

〈工藤委員長〉

30歳代の検診の扱いをどうするのか、忌憚のないご意見を伺いたい。

## 報告事項

### 1. 平成23年度乳がん検診マンモグラフィ読影委員会開催状況について

平成23年度の各地区読影会実施報告は、以下のとおりである。

東部（工藤委員長）－東部医師会館を会場にして、週2回読影会を開催した。計127回開催し、1回の平均読影件数は33件であった。5市町を対

象に8医療機関で撮影された写真4,249件の読影を行い、CAT1が3,654件(86.0%)、CAT2が429件(10.10%)、CAT3が152件(3.58%)、CAT4が12件(0.28%)、CAT5が2件(0.05%)であった。比較読影件数は2,614件(61.5%)であった。症例検討会は5月23日と11月30日、3月26日に開催し、読影委員会は3月19日にそれぞれ開催した。

中部(青木委員) - 県立厚生病院を会場にして、週1回読影を行った。計37回開催し、1回の平均読影件数は29件であった。5市町を対象に4医療機関で撮影された写真1,087件の読影を行い、CAT1が976件(89.79%)、CAT2が34件(3.13%)、CAT3が75件(6.90%)、CAT4が2件(0.18%)、CAT5が0件であった。比較読影件数は365件(33.6%)であった。2月29日に読影委員会を開催した。平成23年度開催された鳥取県マンモグラフィ読影講習会で合格された4人の方が、平成24年度より新たに読影委員に追加され、読影がよりスムーズに行うようになった。

西部(石黒部会長) - 西部医師会館を会場にして、週2回読影を行い、計47回開催、1回の平均読影件数は32件であった。3市町を対象に1医療機関で撮影された写真1,519件の読影を行い、CAT1が1,199件(78.93%)、CAT2が231件(15.21%)、CAT3が77件(5.07%)、CAT4が9件(0.59%)、CAT5が3件(0.20%)であった。比較読影件数は981件(64.6%)であった。その他は各医療機関で読影をされている。症例検討会を3月に開催した。

各地区とも、読影件数は微増傾向で、比較読影実施率は年々増加している。

## 2. 鳥取県乳がん医療機関検診一次検診医登録更新について:

岩垣鳥取県健康対策協議会事務局係長

平成24年度の登録更新となり、平成23年度中に

更新手続きを行った。東部32、中部21、西部30、計83医療機関が登録されている。

## 3. 平成23年度がん検診推進事業(無料クーポン券事業)実績について:山本県健康政策課がん・生活習慣病対策室課長補佐

国庫補助を活用し、平成23年度に市町村が実施した「がん検診推進事業」として、40歳以上の5歳刻みの人を対象に検診無料クーポン券が配布された対象者数は19,198人、受診者数は4,487人、無料クーポン券が配布された対象者数に対しての受診率は23.4%で平成22年度実績よりやや減少した。各年齢別の利用率に大きな差はない。全国では真ん中ぐらいの順位である。

無料クーポン利用者4,487人に対する初回受診者は2,306人で51.4%を占め、また、無料クーポン対象者19,198人に対する初回受診者の割合は12.0%であった。若い年齢の初回受診者の利用率が高い傾向であることから、初回受診勧奨には一定の効果はあったと思われる。

ただし、鳥取県乳がん検診対象者全体約119,000人のうち、この事業対象者は40歳から60歳までの5歳刻み年齢の者約2万人であり、検診対象者全体のわずか16.2%である。さらに実際の利用者は、クーポン事業対象者の23.4%、検診対象者全体のわずか3.8%であることから、この事業の効果が受診率向上に数値として反映しにくいと考えられる。

## 4. その他

平成23年度鳥取県保健事業団の乳がん検診実施状況について、大久保委員より報告があった。受診者数は東部2,845件、中部2,415件、西部1,745件であった。市町村別でみると横ばいか減少傾向にあるが、その中で鳥取市のみ増加している。その理由として、子宮がん検診と乳がん検診のみのセット検診を女性検診として行っていることやさざんか会館等を検診会場にして受診機会を多くしていることなどによると思われる。比較読影率

は東部約90%、西部80%台であるが、中部が80%以下と他に比べ低いので、前回受けていない方がやや多いと思われる。よって、どの地区においても90%以上を目指して、鳥取県保健事業団としても受診勧奨に努めたい。

視触診検診医や読影委員によって要精検率に差があるが、各医師は自身の判定傾向がわからないため、それぞれ読影医ごとの要精検率を読影医に情報提供し、精度管理に努めて頂くようではどうかという話があった。

## 協議事項

### 1. 都道府県がん検診チェックリストによる精度管理の項目について

本県のがん検診の精度管理は、健康対策協議会を中心に質の高い管理が継続されている。

一方、国は、市町村が行うがん検診の精度管理について、「今後の我が国におけるがん検診事業評価の在り方」（平成20年3月がん検診事業の評価に関する委員会報告書）の報告書により、がん検診に関わる市町村、検診機関、都道府県ごとの「がん検診チェックリスト」を示し、精度管理の推進を図っているところである。

このがん検診チェックリスト項目と、現在、鳥取県が行っている精度管理項目の比較を行ったところ、すでに市町村が国に報告し、国のホームページで公表されている項目のうち、健対協では把握していない項目もある。これらについては、可能な範囲で把握し、検診精度管理のさらなる充実を図っていくことについて県健康政策課より提案があった。

これに対し、以下の意見があった。

- ・県民が検診に興味を持てる資料を提供して頂きたい。市町村で評価することは難しいので、県が市町村別の受診率と死亡率との評価したものとか市町村別の早期癌率、陽性反応的中度をまとめて頂くことを検討して頂きたい。

県においては、市町村別に部位別の標準化死亡比資料は示すことが出来る。また、市町村におい

ては、健康対策協議会資料や市町村が持っている既存のデータを活用して、がん検診の必要性をデータを示して住民に説明しているところもあるとのことであった。

その他の問題については、今後、他の部会での協議も含めて検討を行うこととなった。

### 2. 乳がん自己触診法の普及について

本県の乳がんは、近年、がん死亡率の上昇が顕著であり、早期発見・早期治療の推進強化が急務となっている。また、乳がんは自己触診（セルフチェック）により、がんを早期発見出来る可能性が高まることから、正しい自己触診法の知識と手技を普及させることも重要である。

自己触診法は各種団体等が様々な手法を推奨しているが、統一されたものがない。また、自己触診等で気になることがある場合、受診を勧める診療科（乳房疾患の専門医）がわかり辛いことから、本会において推奨される正しい自己触診法の知識と手技（案）の検討を行い、「鳥取県乳がん検診実施における手引き」へ様式追加することとなった。自己触診法の知識と手技（案）について協議を行った結果、以下の改正点が挙げられた。

- ・チェックすべき症状：左右差の有無を見る。を入れる。腕のむくみ、しびれは削除する。
- ・自己触診の範囲を示す図は、両方の乳房に範囲を記入する。
- ・セルフチェック日：毎月1回、月経終了後「1週間以内」に修正。
- ・何か気になることがあったら、かかりつけ医または近くの医療機関に相談し、専門の医療機関を紹介してもらいましょう。に修正。

### 3. その他

工藤委員長より、東部の一部の町で、町独自の検診として、30歳代の住民にも検診をされているところがあり、読影会に写真提出があり、読影結果は異常なしで報告した。

しかし、30歳代は乳腺の発達している乳腺密度

の高い方が多いため、マンモグラフィ検査では適

切な判定が困難な症例もある等の意見があった。

## 乳がん検診従事者講習会及び第20回鳥取県検診発見乳がん症例検討会

日時 平成24年8月18日(土)

午後4時～午後6時

場所 鳥取県西部医師会館 米子市久米町

出席者 78名

(医師：71名、看護師・保健師：6名、  
その他関係者：1名)

吉中正人先生の司会により進行。

### 講演

鳥取県生活習慣病検診等管理指導協議会乳がん  
部会長 石黒清介先生の座長により、岡山大学病  
院乳腺・内分泌外科教授 土井原博義先生による

「若年者乳癌」の講演があった。

### 第20回鳥取県検診発見乳がん症例検討会

廣岡保明先生の司会により2症例を報告して頂  
き、検討を行った。

(1) 博愛病院(2例)：角 賢一先生

(2) 鳥大医 器官再生外科学(1例)：

石黒清介先生

### 乳がん検診一次検診登録講習

石黒清介先生を講師として、乳がん検診一次検  
診登録講習を行った。15名の参加があった。

鳥取県健康対策協議会のホームページでは、各委員会の概要、委員会記録、出版物、従事者講習会から特定健診の情報まで随時更新しています。

なお、鳥取県医師会ホームページ(<http://www.tottori.med.or.jp>)のトップページ左領域のメニュー「鳥取県健康対策協議会」からもリンクしています。

→「鳥取県健康対策協議会」

<http://www.kentaikyou.tottori.med.or.jp>

